

会 議 録

会 議 名	第3回辰野町立小・中学校あり方検討委員会
開 催 日 時	令和6年7月9日（火曜日） 午後6時30分～午後8時15分
場 所	辰野町民会館 大会議室
出 席 者	出席者 委員17名中14名、教育委員5名、事務局5名
会 議 次 第	1. 開会 2. 教育長あいさつ 3. 委員長挨拶 4. 協議事項 5. その他 6. 閉会
会 議 結 果	4. 協議 (1) 前回お持ち帰りいただいた資料の確認 教育長より説明。「辰野町立小・中学校のあり方に関する提言書（平成29年9月）」「町内小・中学校の今後に対する辰野町教育委員会の見解」「辰野町の目指す教育ビジョン」について、資料に基づいて説明。 (2) 前回までの経過と協議の方向性 事務局より説明。「辰野町立小・中学校あり方検討委員会の経過と協議の方向性」について、資料に基づいて説明。 (3) 「これからの時代にふさわしい辰野町の学校のあり方」をテーマとし、「少子化の進展に対応した学校」「多様な子どもたち一人一人を大切にする学校」「これからの社会を生き抜く子どもたちを育てる学び」「地域と共に歩む学校」を着眼点に、3グループに分かれてグループ討議を行い、記録係がグループごとの検討内容等を発表。 5. その他 特になし
発 言 者	発言の内容
教 育 長	2. 教育長あいさつ 大変お忙しい中、またお疲れのところを第3回目の小・中学校あり方検討委員会にご出席いただきました。大変ありがとうございます。 前回から2ヶ月余り経過いたしました。前回は、委員の皆さんが互いに人となり理解し、委員同士が知り合いになり、そして意見を出しやすい雰囲気を作りながら、これからの子どもたちの学校における学びだとか、学校と地域との関わり、学校間の連携など、自由に意見を出していただくということでワークショップを行いました。この後、第2回目の委員会報告、ワークショップにおける論点整理にて説明がありますけれど、実に幅広い意見をいただき、委員のみなさんの学校や子どもに寄せる願いを把握することができました。自由に意見を出していただく中で様々な意見をいただくことができましたので、私たち事務局で、今後論点として集約していくように再度スケジュールを組ませていただきます。また、委員の皆さんもワークショップにてお互いに一歩近づいたことができたのではないかと考えておりま

	す。今回の委員会では前回のワークショップで出されましたご意見を集約し、論点整理をさせていただきましたので、いよいよここから実質的な協議が始まっていくことになります。 急激に子供の数が減少していく中であっても、子どもの学びの環境は維持されなければなりません。子どもにとって明日も希望が持てる、期待が持てる学校でなければなりません。子どもたちには常に支え合える友だち、学び合える友だちがいる学校環境を提供していかなければなりません。そしてもう一つ、町民に、仕方なく学校を閉じるとか、やむをえず学校を統合しなければならないとか、ある意味悲観的、あるいはせつなさを意識させるのではなくて、ここで新たな学びの学校ができるんだという、そういった認識を育てていきたい。子どもたちの明日のために学校を新しく作るんだというそういう認識を持っていくことが大事だと私は考えます。 第1回の委員会でも提出させていただきました今後の児童生徒数について今日再度提出させていただきました。資料7になります。確かに急激に子どもの数が減少していく中、今後学校は統合という形をとったにせよ、意識としては、先ほど言いましたように明日に繋がる新しい学校作りが始まるんだと、そういうスタンスで行きたいと思っております。 今日の後半では、グループ討議をお願いしてありますけれど、委員の皆さんには明日を担う辰野町の子どもの方々の今後の教育のあり方についてご協議よろしくお願ひしたいと思います。 大変お世話になります。
委 員 長	3. 委員長挨拶 皆さんこんばんは。 先ほども教育長さんおっしゃったように、第3回目のあり方委員会ということで、細かな内容あるいは議事録等につきましてはこの後まとめたものを事務局の方から報告があるかと思っておりますけれども、実際に私たち委員としてやっていくのは何かと思ったら、やはり常に検討事項。もしできたらお手元に出していただきたいのですが、そこにこの委員会の検討事項が(1)(2)として挙げられております。その中で最初に挙げられているのは、先ほども教育長がおっしゃったように、少子化の進展に対応した新たな学校作り、それからそれに伴ういろんな学び、それから小中学校の連携、地域との連携、そういうものを検討事項として常に私たちは持っていなければならないと思います。それで実際にこれから少子化の進展に対応した新しい学校というのはどういうものか、いわゆる再編とかいろんな言葉はあると思うのですが、これからどんなふう希望に満ちた新しい学校を作っていくといいのか、あるいはこれからの計画や目安、あるいはどういう学校を作ったら本当にみんなのためになるのか、このようなことを常に念頭に置きながらやっていく必要があります。2年間という期限もある程度示されています。今日の話し合いでも、取り組み等具体的な話が出てくればと思うのですが、いろいろな段階的な取り組みの方法やその時期、最終的な学校の姿、新しい学校の形、そのような話を進められればと思います。

	新聞を見ていますと、つい最近にあったのは、7月7日の日に県の方で個別最適な学び重点6項目案了承というのが出ました。今日もちょうど事務局からこんなことが出てきますけどね。 6月には長野市のメタバースで支援の話題もありました。また、話題になっている信州型のフリースクールの認証制度が4月から始まっています。これらは全て私たちがこれから関わってくる内容かなと思いながらそういった記事に目が行ってしまうわけですが、私自身も幅広くアンテナを広げながらやっていくと少しでもお役に立てるのかなと思います。 3回目の今日は、事務局に現状と今後の方向について説明をしていただいた後に、時間の許す限り今日のテーマに沿って、グループ討議で深めていきたいと思っています。前回の皆様方のご意見がよりまとまりながら、より深まっていく、また新しいこれからの委員会の取り組みの方向が出てくるような、そんな話し合いにしていいただければと思います。 よろしくお願いします。
委員長	4. 協議 (1) 前回お持ち帰りいただいた資料の確認 ①辰野町立小・中学校のあり方に関する提言書（平成29年9月）※資料No.1 ②町内小・中学校の今後に対する辰野町教育委員会の見解 ③辰野町の目指す教育ビジョン ・教育長説明をお願いします。
教育長	・会議資料に基づき教育長説明。
委員長	4. 協議 (2) 前回までの経過と協議の方向性 ・事務局説明をお願いします。
事務局	・会議資料に基づき事務局説明。
委員長	4. 協議 (3) 「前回のワークショップの論点整理」と「これからの学校教育に求められること」「令和10年度～12年度辰野町児童生徒数」をもとに絞り込んだテーマでグループ討議 テーマ：「これからの時代にふさわしい辰野町の学校のあり方」 ・少子化の進展に対応した学校 ・多様な子どもたち一人一人を大切にする学校 ・これからの社会を生き抜く子どもたちを育てる学び ・地域と共に歩む学校 各グループの検討内容について ・各記録係は発表をお願いします。
	Aグループは、皆さん一人一人に、少子化の進展に対応した学校というのはどんな学校だと思いますかという意見をまずいただきました。その中では、地域と共に4校が連携して一つの学校として機能しながらやっていくのがよいのではないかと

A グループ 記録係	大きい学校と小さい学校というような形にするとそれぞれ多様性やニーズに対応できるのではないかと、辰野モデルという形でクラスの基準を辰野の基準というような形にしてある程度クラスの規模を維持できる学校がいいのではないかと、いろいろな意見が出ました。その中でも少子化の急激な改善は難しいという中で、統合、それから老朽化が進んでいるので新しい校舎というのにも必要なかなという意見もいただきました。 その後は今後どんな学校にしたいかっていう部分がやっぱり必要じゃないかっていうことで自由討議に移りましたが、今後どんな学校の規模がいいのかということを中心に話し合いが行われました。最後に、今後どんな教育を大事にしていくかという部分を話し合っていく部分が必要じゃないかと、予算的な部分も切り離せないのでもちろん合わせながら話し合っていく必要があるのではないかと、というようなことで今回の話し合いは終了しました。
B グループ 記録係	B グループでは、今のそしてこれからの児童数を見ると、スタイルはこれから検討していくとしてまずは学校をまとめていく必要があるのではないかと、というところから話が始まりました。また、人数を見ると一つにした方がよいと思うが、つまりいたときに戻るところが一つしかないという不安な思いや心配もあるということでした。しかし、ある程度学年でまとまっている学校があれば、クラスに問題があったとしてもクラス替えという手段も取れるのではないかと、ということでした。さらに、現実的には児童数に対して学校には職員の適正配置の数というのがあると思うので、人数が少ない学校になってしまうと、やることも中途半端になってしまうのではないかと、ということも危惧されておりました。予算の問題だけではなくて人材の不足という心配もあるということでした。その他には、分校のような形をとって学年が上がっていく中で大きな人数に集約をしていってもいいのではないかと、という話がありました。
B グループ 記録係	C グループもいろいろな意見が出されました。 まず私立の学校がこの地域にないということで、小中一貫を進めて 9 年間のうちの 8 年でカリキュラムを終えて、残りの 1 年は専門的な学びができるような今までにない新しい学校、そういう意見が出ました。今までの学び方では、そのうち AI に変わられるという意見も出ました。また、学校の数を維持するかまたは統合するかを決めてからの方が、意見が出やすいということも出ました。何か行政が行う場合、複数の学校で進めるより一つの学校で進める方がやりやすいという意見も出ました。あと学校に行けない子の話が出たんですけども、山梨県はクラス替えがかなり多く、何年かに 1 回やっているということで、やっぱりクラスが複数ないとクラス替えができないので、そういうところは環境もすごく大切で、ある程度まとめた方がいいのかなという意見がありました。子どもの数が少ないということで、一人一人の個性や特性に寄り添うですとか、学力を伸ばしてくれるしくみが必要なのではないかという意見も出ました。あと均等に教えていかなければならないのですが、それに対してそれぞれの個性特性も必要であるという意見も出ました。それから、前回の提言の 10 名というところは当分このままでいいのではないかと、いう意

	見も出ました。そして、一つにまとまると地域との連携が難しくなるので、そこは慎重にしていかなければならないという意見が出ました。今日の4つの視点なんです、一番上とあとの3つは、ちょっと逆行するので、丁寧に進めていく必要があるという事です。以上になります。
委 員 長	ありがとうございました。 次回については、前回事務局の方から大きな流れを出していただいておりますが、今日のところまとめていただいて、役員と事務局とで話し合って報告していきたいと思います。今日のテーマと着眼点の4つについては、先ほど言いましたように検討事項と重ね合わせながら今後話していけたらいいなと思います。 私はグループ討議の中で、子どもたちにとっての新しい学校とは何かということや新しい教育とは何かということをいろいろお聞きして本当に多様な考え方があるんだなということがよくわかりました。私が皆さんにこういう学校ということを書いて発表してくださいとお願いしましたが、私は複数学級のある学校みたいに簡単に考えたのですが、そう簡単なものではないですね。それぞれの皆さんの思いとかこういう学校でありたいということはなかなか一言では言い表せない、また、多様な一人一人を大切にする学校とか、子どもたちの学び、地域や学校、小学校中学校の連携、その辺のところも進んでいく時代に合わせながらやっていかなければならないということを思いながら進めさせていただきました。 それでは事務局の方も何かありましたら、よろしいですか。 それでは本当にたくさんのご意見を出していただきましたが、前回よりはだいぶ深まったというわけではないですけど多様な考えが出されたように思います。大きな方向はそんなに大きく変わっていませんけれども、ただそこへどんな経過をたどっていくとかそんなところをも含めて、この委員会としてやっていければと思います。 よろしいでしょうか。進行の方これで終わりたいと思います。お返しします。
事 務 局	5. その他 特にありません。
事 務 局	6. 閉会 それでは第3回のあり方検討委員会を終わります。お疲れ様でした。